

2017年度 遺伝研 研究会

「マウスとラットで拓く新しい比較実験動物学」

(NBRP ラット後援、NBRP 実験動物マウス後援)

マウスとラットは共に実験動物として重要な役割をはたしていますが、これまでそれぞれの動物種で独立して解析をすることが一般的でした。しかし、近年のゲノム編集技術の進歩に伴い、両方の種で同一の遺伝子をノックアウトすることや、同一の変異をノックインすることが可能となってきました。今後、これらの遺伝子変異をもつマウスとラットの表現型を比較することで、多面的なアプローチによる遺伝子機能の理解が期待できます。

そこでこのたびマウスあるいはラットを用いて研究を進めている先生方と共に研究会を開催することで、両種の比較により遺伝子機能のより深い理解につなげるためのアプローチの開拓や情報交換による更なる研究の推進に繋がりたいと考えています。本研究会では、どちらが優れた実験動物かという議論ではなく、あくまで両種の比較によるより深い生命現象の理解に結びつけることを目指しています。

この研究会では、未発表データについてもご紹介頂き深く議論したいと思っております。そのため、参加者は守秘義務を負うことをご了解ください。また、講演中の撮影、録音、また講演で得られた情報の SNS 等による発信などはすべて禁止させていただきます。活発なご議論になることを楽しみにしています。

日時 2017年12月14日木曜日 13:00より
2017年12月15日金曜日 12:30まで
場所 国立遺伝学研究所 講堂

懇親会 第1日目(14日) 18:00より(講堂)
有職者 3000円
学生 1000円



(世話人)

京都大学医学研究科

庫本高志 tkuramot@anim.med.kyoto-u.ac.jp

国立遺伝学研究所 マウス開発研究室

小出剛 tkoide@nig.ac.jp

口頭発表について

基本的にご自身のノート PC をお使いください。

プロジェクターへの接続は D-Sub 15 ピンケーブルで行います。Powerbook などコネクターが必要な場合は各自ご持参ください。

発表の持ち時間は各自質疑応答を入れて 28 分です。23 分程度で発表を終了するようにご準備ください。十分にディスカッションの時間をとって頂くようお願いいたします。スケジュールが大変タイトになっていますので、時間の超過をしないようご協力をお願いいたします。

ポスター発表について

ポスターは A0 (841×1189 ミリ) の縦サイズ程度でご準備ください。

研究会会場にポスターボードを設置していますので、プログラムに記載している番号のところに貼り付けをお願いします。研究会開催中は掲示したままで結構です。

研究会会場 国立遺伝学研究所 講堂 (マップ D 棟 2 階)

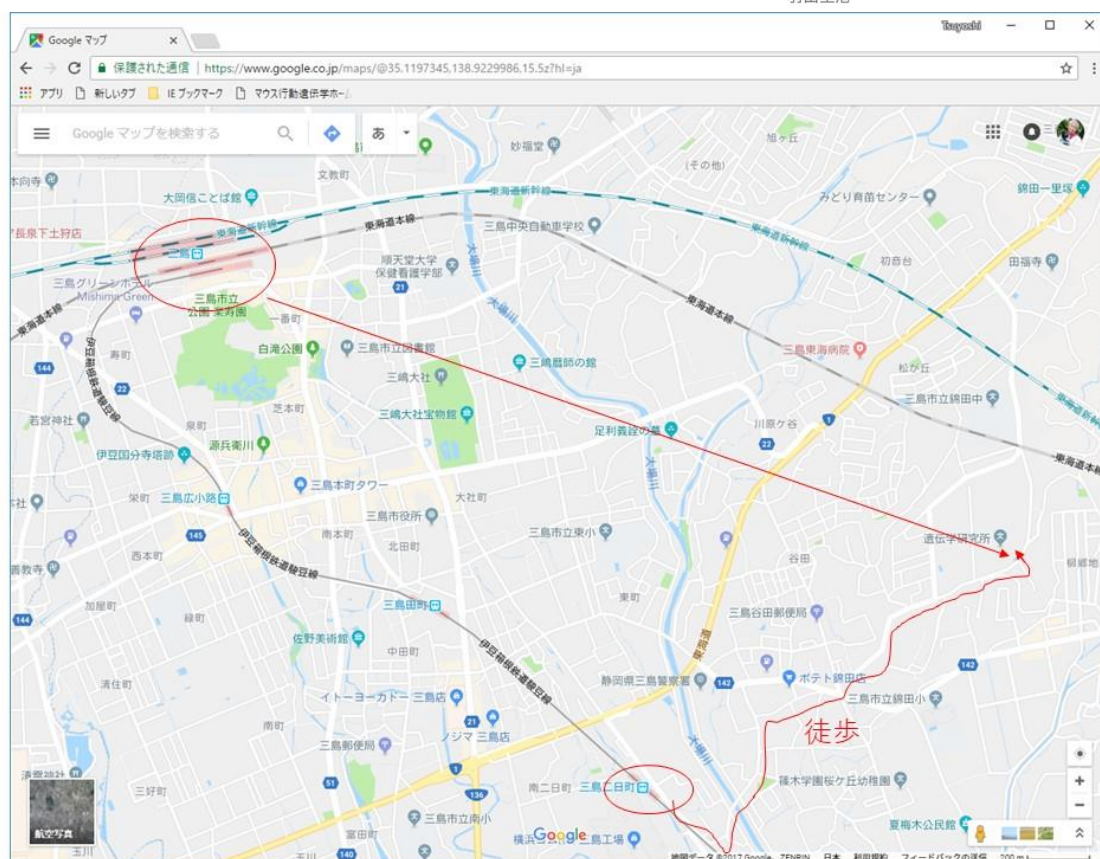
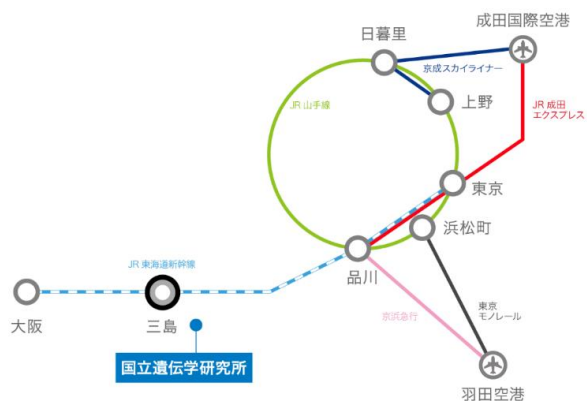


市内のビジネスホテルでは駅周辺に以下のようなホテルがあります。

東横イン富士山三島駅 (<http://www.toyoko-inn.com/hotel/00215/>)

ドーミーイン三島 (<http://www.hotespa.net/hotels/mishima/>)

アクセス



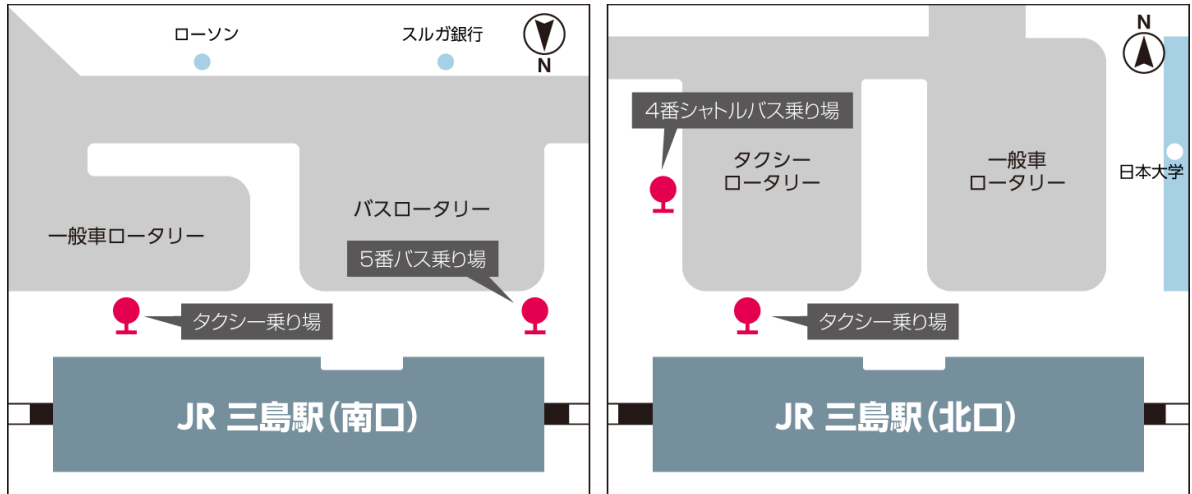
三島駅から徒歩 40 分、タクシーで 10 分（1,500 円）程度です。

タクシー

伊豆箱根交通株式会社	TEL : 0120-750-818
富士急伊豆タクシー株式会社	TEL : 0120-249-001
伊豆箱根タクシー株式会社	TEL : 0120-750-818

電車（伊豆箱根鉄道）

三島駅 →（伊豆箱根鉄道）→ 二日町（下車）→ 徒歩 25 分程度



バス停（時刻表はこちら <https://www.nig.ac.jp/nig/pdf/access/accessJ.pdf>）

三島駅から遺伝研までは少し距離がありますので、遺伝研の無料シャトルバス（北口シャトルバス乗り場より）をご利用頂くと便利です。ただ、二日目（15日）の朝は遺伝研通勤の方がシャトルバスに多数乗車するのでご利用をお控えください。

北口発 → 遺伝研

8時3分
8時40分
9時30分
10時5分
11時5分
12時5分
14時5分
15時5分
17時3分
18時5分
19時5分
20時5分
21時5分

遺伝研正面玄関前発 → 三島駅北口

7時40分
8時23分
9時3分
9時47分
10時25分
11時25分
13時25分
14時25分
16時20分
17時20分
18時25分
19時25分
20時25分

研究会プログラム

平成 29 年 12 月 14 日 (木)

- 12:00 受付開始
13:00-13:35 開会の辞
庫本高志 (京都大学医学研究科)

セッション 1 座長：若林 雄一

- 13:05-13:35 ラットの特性：遺伝子改変時代を見据えて
庫本 高志 (京都大学医学研究科)
13:35-14:05 マウスとラットの比較から明らかにする行動関連のゲノム領域
小出 剛 (国立遺伝学研究所マウス開発研究室)

セッション 2 座長：隅山 健太

- 14:05-14:35 ラットの遺伝子改変：ゲノム編集と疾患モデル
真下 知士・吉見 一人 (大阪大学大学院医学系研究科附属共同研ゲノム編集センター、大阪大学大学院医学系研究科附属動物実験施設)
14:35-15:05 様々な手法を用いた遺伝子改変マウスの作製
清成 寛 (理化学研究所 CLST 生体モデル開発ユニット)
15:05-15:30 休憩+ポスター発表

セッション 3 座長：吉木 淳

- 15:30-16:00 近交系の聴力差の遺伝的要因を探る
吉川 欣亮, 宮坂 勇輝, 安田 俊平, 設楽 浩志 (東京都医学総合研究所)
16:00-16:30 マウス・ラットの行動解析 -何ができて、何ができないのか?-
吉原 亨 (京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設)

セッション 4 座長：森 政之

- 16:30-17:00 神経解剖学を通じたラット研究の新たな展開
坂本 浩隆 (岡山大学 理学部附属臨海実験所)
17:00-17:30 GABA 合成酵素の障害と精神神経疾患：マウスとラットのノックアウト動物を利用した比較研究
柳川 右千夫 (群馬大学大学院医学系研究科)

ポスターセッション 懇親会

- 17:30-18:00 休憩+ポスター発表
18:00-20:20 懇親会

研究会プログラム

平成 29 年 12 月 15 日 (金)

セッション 5		座長：横井 伯英
9:00-9:30	NIG_MoG: マウス亜種間ゲノム多型を探索するナビゲーター 高田 豊行 (国立遺伝学研究所哺乳動物遺伝研究室)	
9:30-10:00	ラットゲノム解析ツール 須山 幹太 (九州大学・生体防御医学研究所)	
10:00-10:30	2 型糖尿病感受性遺伝子 Kcnq1 による膵 β 細胞量調節機構 木戸 良明 (神戸大学大学院保健学研究科病態解析学領域病態代謝学分野)	
10:30-10:50	休憩+ポスター発表	
セッション 6		座長：吉見 一人
10:50-11:20	ラットモデルを用いた PPAR γ の病態生理的意義の解明 海老原 健、阿部 恵、海老原千尋、Valentino Gumbilai、真下 知士、 芹川 忠夫、中尾 一和 (京都大学医学部附属病院臨床研究総合センター、 自治医科大学医学部内科学講座内分泌代謝学部門、京都大学大学院医学研究 科附属動物実験施設、京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーション センター)	
11:20-11:50	マウスとラットを使って寄生虫の不思議な特性に触れてみる 大野 民生、宮坂 勇輝 (名古屋大学大学院医学系研究科実験動物部門)	
11:50-12:20	バイオインフォマティクスの立場からのマウス・ラット研究の融合 榎屋 啓志 (理化学研究所バイオリソースセンター)	
12:20	閉会の辞 小出 剛 (国立遺伝学研究所)	

(敬称略)

ポスターセッション (2017年12月14日(木) 17:30-)

- P-1 田中 美有 (京都大学) ナショナルバイオリソースプロジェクト「ラット」と比較実験動物学
- P-2 牛木 亜季 (筑波大学) レニン遺伝子の高血圧応答性を制御するエンハンサーの同定
- P-3 吉木 淳 (理研 BRC)
- P-4 Kim Hyeon-jeong (九州大学)
- P-5 綾部 信哉 (理研 BRC)
- P-6 西谷 あい (京都大学) Hcn1 ノックアウトラットの運動機能の評価
- P-7 小林 久人 (東京農大)
- P-8 齋藤 慈 (千葉県がんセンター) がん抑制遺伝子 p19Arf に存在する非同義置換多型の機能解析
- P-9 松本 悠貴 (遺伝研) ゲノム・トランスクリプトーム解析を用いたマウスの従順性に関わる遺伝的基盤の解明
- P-10 永山 博通 (遺伝研) 能動的従順性に基づく選択交配により作出された野生由来マウスの社会性の解析
- P-11 上田 奈央子 (遺伝研) マウスにおける自発活動性に関する遺伝子の解析
- P-12 国広 弥生 (大阪大学) エレクトロポレーションと凍結胚を用いたゲノム編集マウスの作出
- P-13 田邊 彰 (遺伝研) 黒ハツカネズミの起源: ノンアグーチ遺伝子に挿入された二重のレトロエレメント
- P-14 服部 晃佑 (大阪大学)
- P-15 寺本 奈保美 (東京大学) ジストロフィン遺伝子に in-frame 変異をもつラットの骨格筋における病態解析
- P-16 杉原 英俊 (東京大学) ジストロフィン遺伝子変異ラットの骨格筋病態悪化に細胞老化が関与する可能性
- P-17 高浪 景子 (岡山大学) ラットとマウスにおける痒み感受性の相違
- P-18 奥村 和弘 (千葉県がんセンター) 皮膚早期良性腫瘍抵抗性遺伝子座 *Stmm1a* の原因遺伝子の探索
- P-19 Lalitha Devi (遺伝研) Impaired angiogenesis-specific signaling in adult testis results in xenograft degeneration